

今日のトピック アジア通貨(4カ国)の現状と見通し 外需の回復などが支え対円で底堅い推移へ

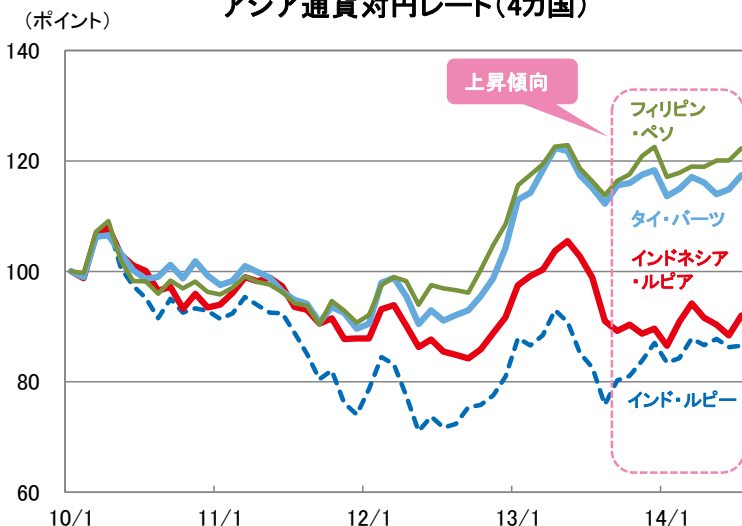
ポイント1 対円で上昇傾向

株式市場への資金は流入傾向が
強まり、通貨の上昇要因に

■アジア4カ国の通貨(インドネシア、タイ、フィリピン、インド)は、2013年10月以降、対円で緩やかな上昇傾向にあります。各国の経常収支の改善傾向や、世界的な緩和的金融環境などが要因と見られます。

■EPFRグローバルによると、アジア新興国の株式ファンドへの世界の投信マネーは、今年6月に流入傾向へ転じた後、8月に入って流入の加速が見られます。こうした動きは通貨の上昇要因のひとつと見られます。

アジア通貨対円レート(4カ国)



(注) データ期間は2010年1月～2014年7月の各月末値。
各国通貨の対円レートの各月末値を2010年1月＝100として指数化。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

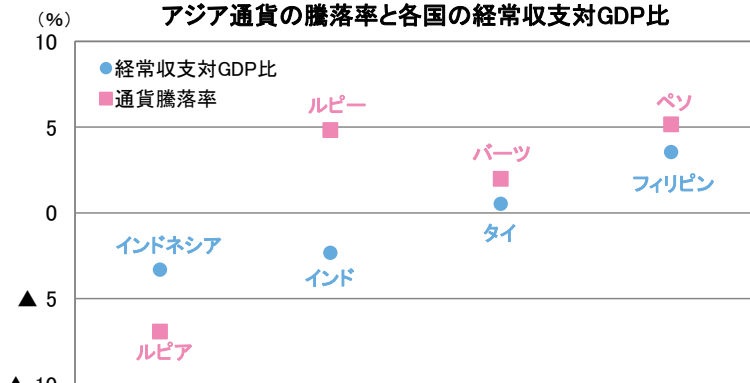
ポイント2 経済構造改革の進展に期待

外貨準備の増加は安定化要因

■インド、インドネシアでは新政権による経済構造改革の進展や経常収支とインフレの改善が、タイでは軍政移行後の経済の安定化が、それぞれ通貨のプラス要因となる見込みです。

■アジア4カ国の外貨準備は増加傾向にあり、外貨不足への懸念を和らげることから、通貨の安定化要因です。

アジア通貨の騰落率と各国の経常収支対GDP比



(注) 経常収支対GDP比は2013年10～12月期と2014年1～3月期の平均値。
通貨騰落率は2014年7月の対円レート(月末値)の前年同月比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 アジア通貨は外需回復と日銀の金融緩和により対円で底堅い推移へ

■米国経済の回復、中国経済の安定化により、アジア4カ国の経常収支の改善が見込まれます。これはアジア通貨を支える要因のひとつとなります。

■日銀の強力な金融緩和の継続も、対円でのアジア通貨の上昇要因と見られます。

■米国で早期に利上げが実施される場合は、アジア通貨の波乱要因と思われます。ただし、外貨準備の増加が通貨への不安を緩和することから、影響は限定的にとどまりそうです。

ここも チェック!

2014年07月30日【キーワード No.1,381】マレーシア利上げ後のアジア新興国の金融政策(アジア)
2014年07月25日【キーワード No.1,378】「世界の投信マネー」はアジア株式ファンドへ(グローバル)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。